

平成28年7月16日(土)

日本学術会議 防災学術連携体

熊本地震3カ月報告

こども環境学会会長 松本直司

1. 支援活動経過

(1)支援活動についての緊急役員会議の開催(4月24日)

- ・現地情報収集
- ・熊本地震関連ホームページ立ち上げ
- ・災害時学会対応マニュアル作成準備
- ・活動資金の工面
- ・学会としての長期的視野づくり

(2)情報収集

- ①熊本在住の学会員に情報提供の依頼(4月30日)
- ②学会員個人による情報収集

(4)熊本地震関連ホームページ立ち上げ(随時更新予定)

(5)学会員による個人支援活動の開始

(6)熊本支援会議(5月28日)

学会として可能な範囲の役割分担決め

- ①既存成果マニュアル化
- ②情報収集
- ③活動資金
- ④現地支援

(7)熊本支援会議(6月25日)

具体的な支援活動の実施

2. 支援活動プログラム

1. 通常時

(1)学会としての長期的視野

①緊急対応体制の整備

1)事前→2)災害時→3)災害直後→4)災害後

②こども防災教育プログラムの普及

③こども災害対応マニュアル整備

2. 災害時

(1)会員安否確認

3. 災害後

(1)緊急会議開催

①課題の認識

②方針の速やかな決定

(2)人材面

①災害対策常置委員会の設置

②支援者募集

(3)情報発信

①会員へメール発信

②ホームページ

(4)他の支援団体との協力

(5)情報収集

①活動資金の捻出

②現状把握

1)新聞等情報誌より

2)地元会員より

4. 災害後

(1)こどもの保健衛生管理

(2)こどものケア

①心と体を元気に

1)遊び支援

2)演劇等イベント支援

②遊び場の確保 → 1)行政への呼びかけ

(3)地震体験者・専門家からのアドバイス

(4)支援活動の検証

(5)長期的視野の更新

3. 子ども災害対応マニュアル

(1) ころを育む



平成27年度報告書



① 小規模児童劇

人形劇は乳幼児施設などで実演後に封筒や紙コップで指人形を作って遊んだ。また、今後継続して県内の児童施設などで実施できるようにテキストを作成して配布した。



人形をつくらあそぼう

②大規模児童劇

こどもミュージカル『おとぎ森へ』は、スタッフと30人の子どもたちが舞台装置作り、舞台稽古を行い、実演に至る二日がかりのミュージカルワークショップ事業で、保護者も一緒に子どもたちの想像力を実体験し発見してもらう機会となった。

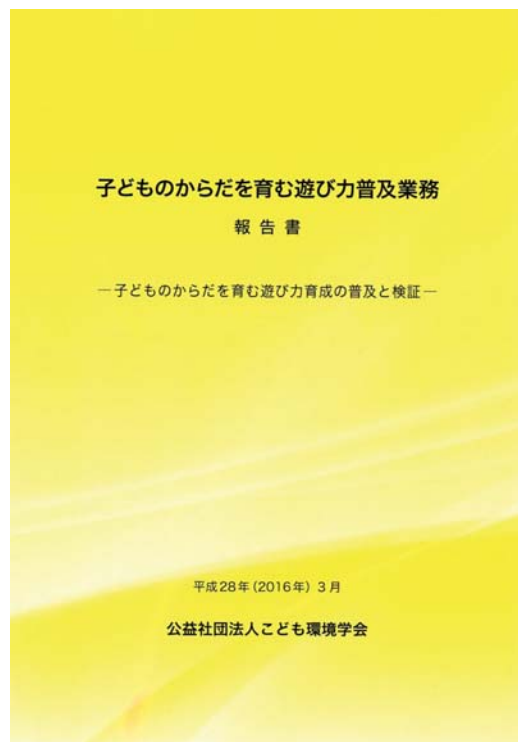


こどもミュージカル『おとぎの森へ』

(2) 体を育む



平成27年度報告書



平成27年度報告書

起伏のある園庭づくり

— 丘や斜面は運動を活性化します —

ハイハイし始めた子やよちよち歩きの子は、平らな広い場所ばかりでなく、起伏にとんだ場所でも動けるようにしていくことで、身体能力が形成され、筋力なども育ってきます。

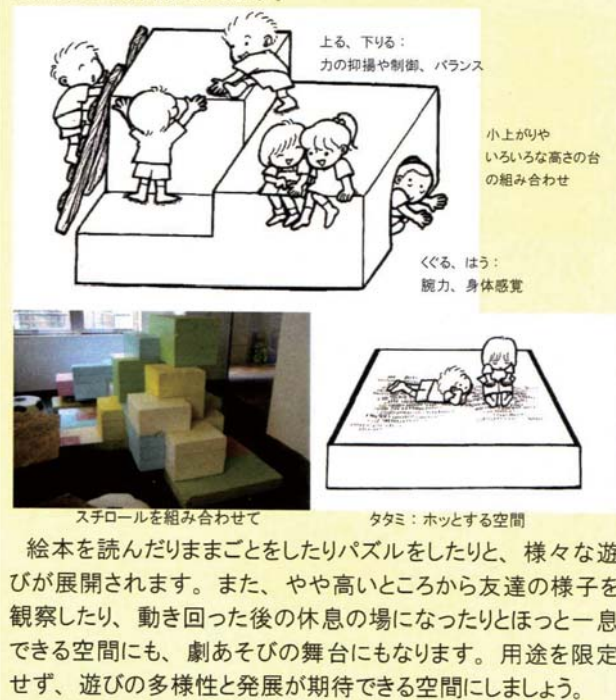
大きな築山がある方が楽しいですが、乳児はほんの少しの起伏でも、そこは冒険の場所となるでしょう。



室内での立体的な空間づくり

— 高低差が上下運動をうみだす —

小上がりや色々な高さを組み合わせた台があると、上がったりと下がったりする動作が得られます。畳一枚ほどの広さがあれば、遊びの舞台になります。



4. 被災地における様々な課題と取り組み

情報収集として、地元紙「熊本日日新聞」の記事に、災害状況や取り組み、地元意識などのすべてではないがだいたいは網羅されていると考える。

記事の中より災害後、どの時期にどのような復興がなされそれにどのような人がかわり、どのような課題が浮き彫りにされているかを抽出する。

これより、学会としての

- ①こども災害対応マニュアル整備
- ②子ども防災教育プログラムの作成

に、それぞれ有効であると考えます。

現在4月15日から6月20日までの朝、夕刊を取り寄せており分析を開始している。

分析として、以下のような仮説が設定される。

- (1)地震後の経過日数により、新聞で取り扱われる内容が変化してきており、この変化が地元のその時点での課題を反映している。
- (2)記事として取り扱われる多少により、課題の重要度がある程度示される。
- (3)記事掲載が少ないものについては、
 - ①あまり重要でないもの
 - ②潜在化してしまいがちな課題で、今後は注目すべきものがあり、特に②については注意が必要である。
- (4)その他

現在の分析(おもなる記事)

- 4・18心のケア
- 4・20ボランティア活動活躍(高校生ボランティア大活躍)
著名人の訪問
- 4・21若者SNS活躍
- 4・23学校再開話 医療施設、本市民病院 避難所暴力
- 4・25子供食堂
- 4・26中学生ボランティア
- 4・27市街への転校生で始める
- 5・5通学困難な地区への対策
- 5・11全校再開学校
- 5・19通学路の安全性確保
- 5・25体育祭
- 5・28高校総体
- 6・2給食改善

5. 学会員の熊本における支援自主活動

(1)活動期間:5月18日から5月24日

(2)熊本市9か所、宇土市1か所、山鹿市2か所

保育園、公民館、子育て支援センター、

認定こども園など

(3)活動主体:「プランニング開」

熊本での心をはぐくむ支援活動



仙台市の「笑顔バス」でやってきた



あきらちゃん&コロツケくんコンサート笑顔バス



新田どんちゃん&ひろみちゃんお話し遊び



写真:(有)プランニング開提供

6. 現地での学会支援活動 学会プロジェクト担当者による

1. 被災保育園(幼稚園)の保育環境正常化のための緊急アドバイス支援

(1)目的

保育プログラムや、園庭、建物等を総合的に判断して、保育環境全般の正常化に対する包括的なアドバイス支援を行う。

(2)内容・方法

保育園等に対して早期に訪問調査を行い、園の稼働状況復旧するための手立てについての的確なアドバイス支援を行う。

現地視察の上で改善支援策について、ルール化、マニュアル化を行い、多くの保育園にも有効な支援策を提供する。

以下の通り、支援活動はすでに実施されている。

(1)7月12日(火)

16:00～18:00

■熊本県土木部建築住宅局建築課 意見交換

(2)7月13日(水)

9:30～11:00

熊本県健康福祉部子ども・障がい福祉局子ども未来課 意見交換

場所:熊本県庁内、こども未来課

13:00～15:00

認定こども園 滝尾幼稚園

意見交換 古閑園長

19:00～21:00

熊本県土木部建築住宅局建築課



ご清聴ありがとうございました。